

教皇、新たな経済を提唱

実現を担うのは青年たち

【バチカン10月3日CNS】地球環境や貧しくされている人々に対する責任感と関わり、思いやりをもっている今日の若い成人たちは、地球で暮らす全ての被造物のために健全な未来を実現できる最後の世代かもしれない、と教皇フランシスコは強調している。

「おそろく皆さんが、私たちが救うことのできる最後の世代です。大げさな話ではありません」と教皇は青年たちに語り掛ける。

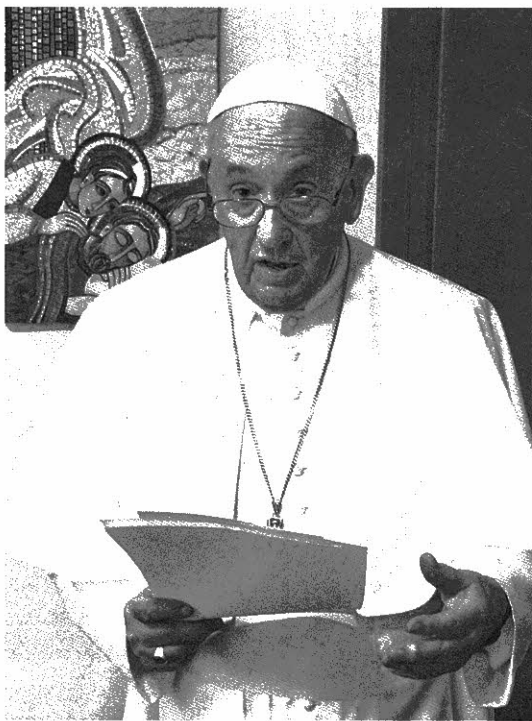
研究者たちが、年長の専門家たちと共に1年半以上にわたってオンラインでつながり、農業と雇用、平和と環境保護、財政と開発についての研究を重ねて、より多くの人々と環境のために経済を向上させる方法を模索してきた。

教皇フランシスコは若い大人たちに、「創造性とリスクへの対応能力」を生かすよう促し、そのたまものと知識を駆使して、「過去の間違いを正し、もっとあらゆる人が参加できて持続可能な、互いに支え合える新しい経済に私たちを導いて」くれるようにと祈った。

若い人たちによる働きの重要性は、かつてないほどに際立っている、と教皇は指摘する。

「パンデミックで求められた責任」

「新型コロナウイルス感染症の大流行」



10月2日、イタリア・アッシジで開かれた若者の会議へのビデオメッセージで語る教皇フランシスコ(CNS)

間に、私たちの共通の家と人類という家族の世話を怠ってきた全てのつぎに直面してきた」と教皇は振り返る。過去にも現在にも、協力と連帯、人間と自然環境の間の関係への配慮や改善の努力があまりにも少なすぎたとしている。

「いのちを奪う病んだ経済は、私たちが被造物の所有者で、私たちの利益や成長のためなら搾取してもいいという思い込みから生まれていきます」と教皇は警鐘を鳴らす。

「パンデミックが私たちに気付かせたのは、私たちは被造物が全てのいのちに与えている財産の世話をしよう求められている」ということです。私たちに課せられた務めは、誰一人として排除されない方法で、こうした財産を分配するために力を尽くすことだと気付かされたのです」と教皇は強調する。「最後に、パンデミックが

「今こそが、私たちは互いを必要としていて、お互いに対して、この世界に対して責任があることを改めて理解するのにふさわしい時なのです」と教皇フランシスコは付け加えた。

「今こそが、私たちは互いを必要としていて、お互いに対して、この世界に対して責任があることを改めて理解するのにふさわしい時なのです」と教皇フランシスコは付け加えた。

「今こそが、私たちは互いを必要としていて、お互いに対して、この世界に対して責任があることを改めて理解するのにふさわしい時なのです」と教皇フランシスコは付け加えた。

「新型コロナウイルス感染症の大流行」は、私たちの社会にはびこっていた根深い不平等を明らかに示しただけでなく、さらに拡大してしまいました」と教皇は続けた。「動物界からのウイルスが発現してから、私たちの共同体では、失業や貧困、格差、飢えや必要な医療ケアからの排除が大幅に増えてしまったのです」

「私たちは過去2年

「パンデミックで求められた責任」

「新型コロナウイルス感染症の大流行」